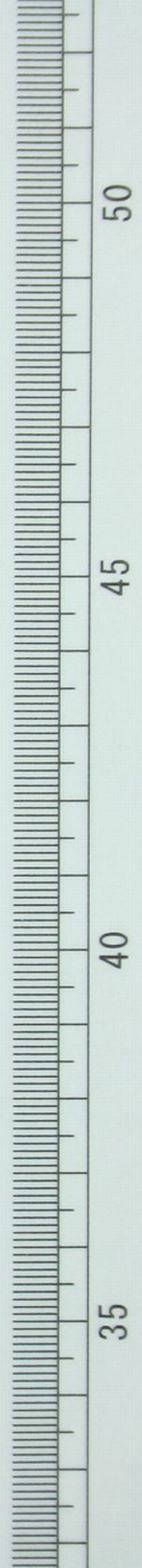


小倉文庫  
イ 16  
40



門 116  
 號 40  
 卷



新篇塵劫記下卷よ六四十二ヶ所の積  
 算とわけを述べ内にも違闕ある助の  
 本有此人をたゞして世に傳へん  
 國家の至聖なる一人又世に算助の  
 至聖教人のまこといふべきなるよ  
 助者の位とよめるの人の見知りし  
 るやこれより新といふをひらき故に其  
 助者の位とたゞし諸人の見よけりた  
 今け巻よとて然くおしく知すこと

昭和二十七年  
 六月二十日  
 受入

勤者ハはるんのはと任して世は徳下  
 死を任とらふは經をまゐるふ或ハ死んば  
 わまとして其身の心はわやとつふと  
 勤とのわををまればおまては又勤  
 聖刊よりといふは師はわはる勤者  
 かのこころとふを我はわはる勤者  
 算書十五卷をまて算藝は名  
 わるハ六藝の二つは徳て不庸と  
 吉田光由

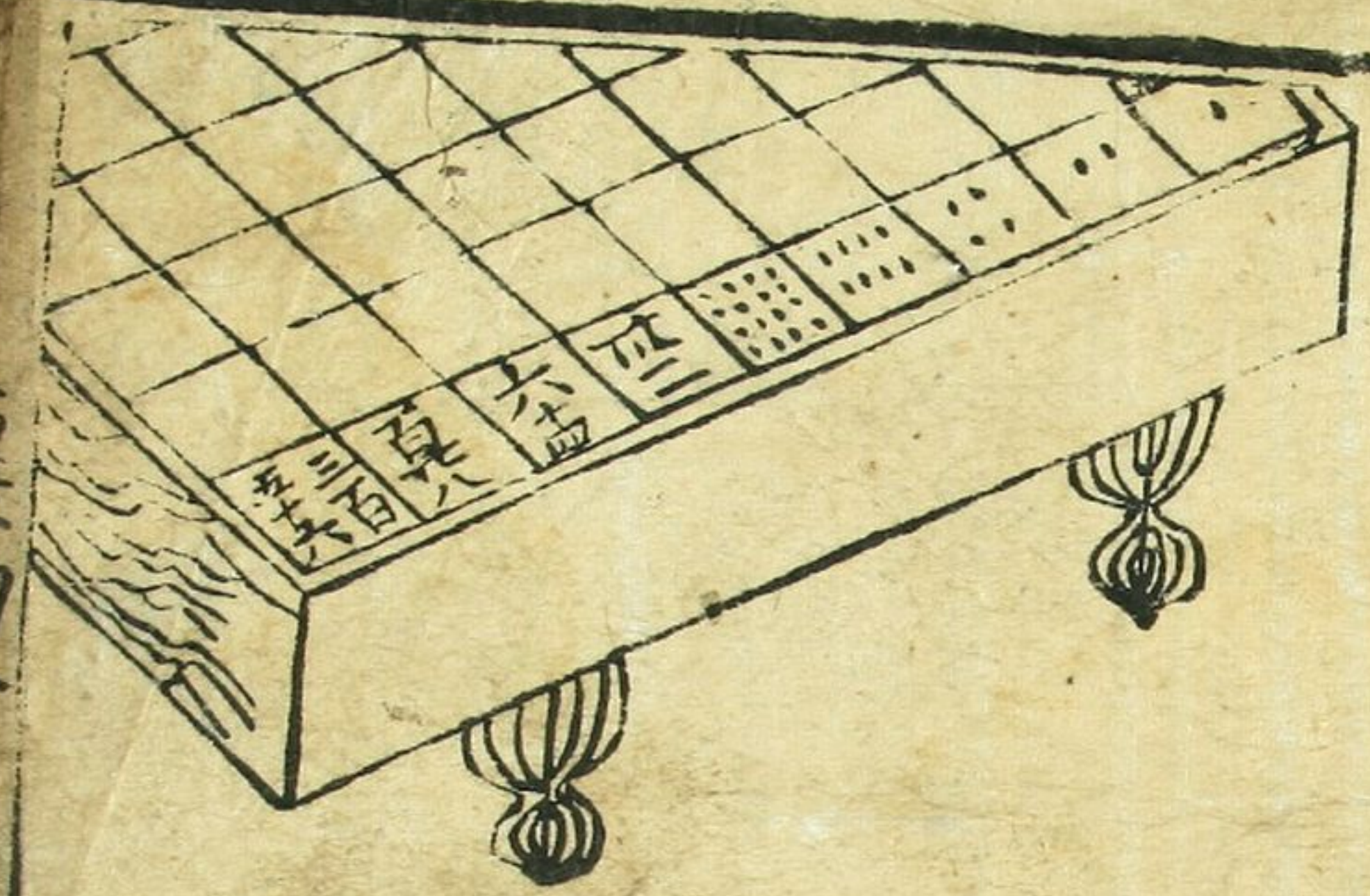


日月の地と云ふは  
 四方二千由旬と云  
 但是と云六町一里より  
 つりてはわたりと云  
 日月の  
 四方二千由旬と云  
 是と云六町一里よ  
 つりてはわたりと云  
 二方三千三百町三里十二町

けー一劫いふ四十里四方六面の約  
 入らげーの敷と二年よーのうーの  
 天人の物衣いて。まてうーのり  
 つーのうーと一劫と云



四十里  
 けーの敷  
 五百廿四埃  
 八千六十五  
 東四千七百  
 八千四兆  
 粒を



又ニツを同いふ。一をいつまゆーの  
 じん中よ。ゆりごう同

△東四千九百七十  
 五兆二千七百廿二億  
 令四百八十七万六千二  
 百九十一石又計六十一  
 八合七勺二勺又九二  
 九日本国中のいふ  
 万万年にてもたぬ

右之茶の作りし四方ありし向

言曰九於五里元一町元八分五厘二分八分四方

之とも右同あり

右之茶の日に中し。抽女のあんまきしおこして  
大唐四百余列の抽女ありし。しる事あり

か

右之茶の作りしものより目之茶もさるらんよ  
まつとして。といふと。きく茶やに云やういふ事

茶つふと目ひ一ツひろは二目三ツひろは四目一は

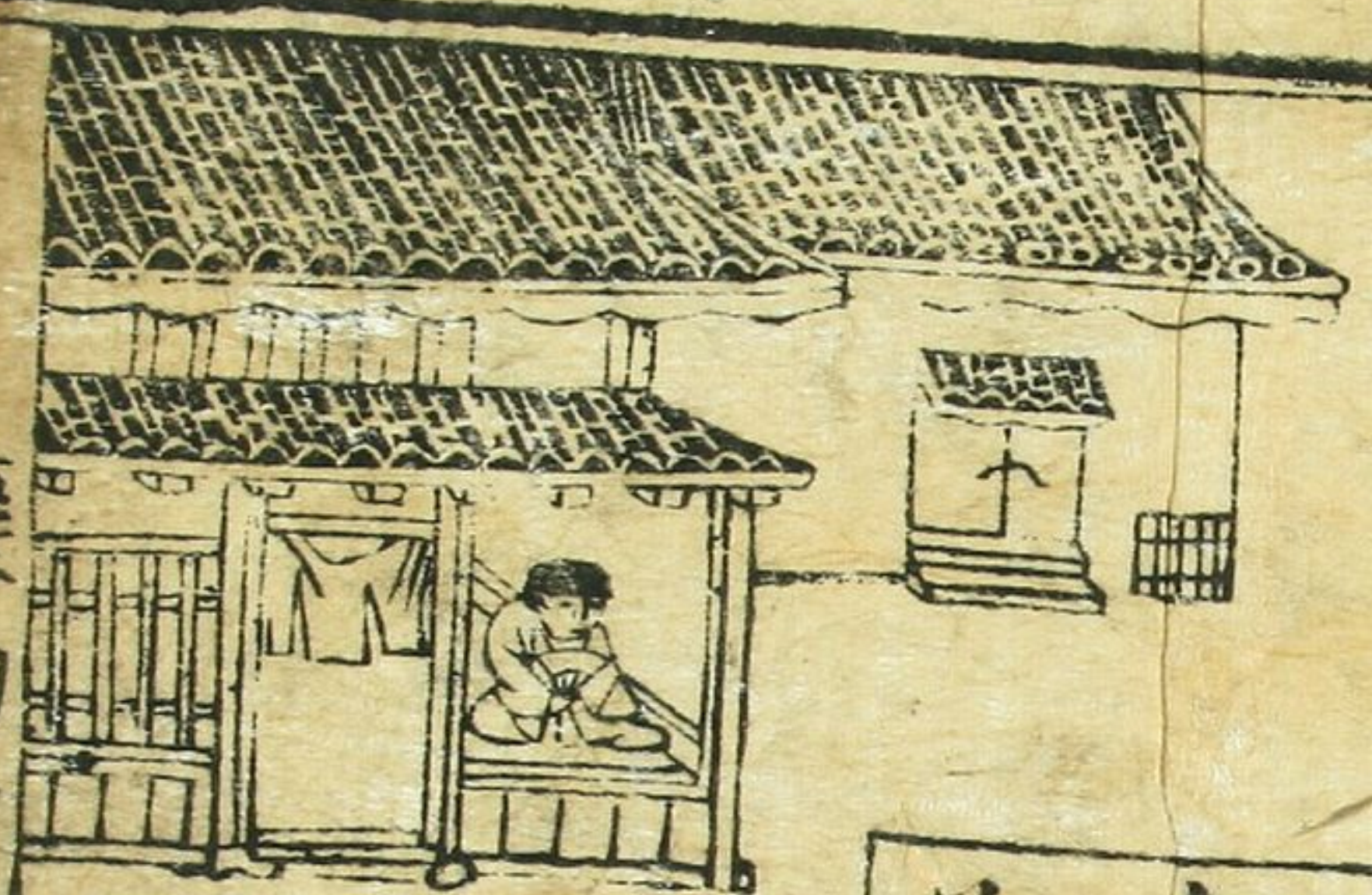
茶とて。て。おろし。し。茶とて。し。茶の

茶をうけあひ。二目より。飛目とて。ひろし。し。ひ

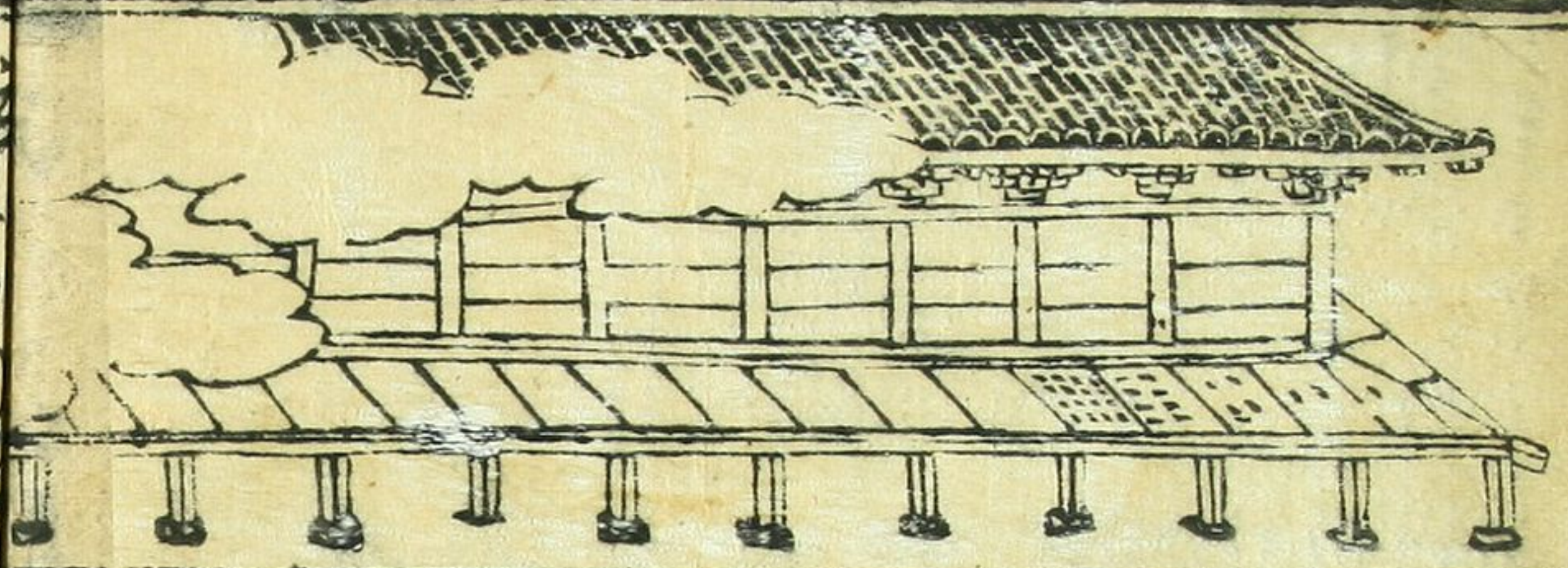
茶とて。し。し。茶とて。し。し。茶の

合算於八石九升八末七人

茶をもし。れとて。けぢん信



茶



世三ツツの堂の<sup>まゝ</sup>に本一  
 邊。次のまよふに<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>  
 四ツふも。め<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>  
 ま<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>  
 け<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>に<sup>まゝ</sup>

答曰

合二千八百九十石<sup>六</sup>  
 六<sup>六</sup>

合三万二千六百廿六石  
 合三万二千六百廿六石  
 同

合三万二千六百廿六石

一里よ六百八十貫文  
 一里よ六百八十貫文



江戸より京まで乃わひひま  
金一ぶと二ツありひまあへての  
みよあしむるもくもく同

一ぶの敷

合二千令六十三万二千七百

十八あり

但一分乃長さ五分半にせ  
右ふ株よつりてい何にあらと  
同 答百四十中夜八末二合

けー一つぶありひまあしむる  
るふり入るもく同

け敷六億七千三百九十二万粒を

一石六計八中四八夕てる

但一寸にけー四十粒

あふつりあり

一殊ニハ四百万粒入つとも

け一億とつる

七十七里九町一る三尺五寸

五里四二



江戸より京まで百廿里のる  
 一里二又ツク立つところにして  
 人較ふふがくわうとく向

答曰  
 二千九百九十二百人



くまのり

答曰 二千八百四丈

但一ふ付  
 長五分半  
 廣三分半

わうく九りのつまひ

太一木のかりく他ッ付二丈一分七リ  
 七貫九百九十四丈

右指つより。ツと十丈六分トドてハ  
 振百八丈八百六十四丈





金一分一錢とくくよのへてへ何ほし  
ていよふあうとく向

各日八十二り三尺一寸六分り四方よなう

右金一ふ一平よ六千八百でふと一ツ

あふひよ長くあへては長るゆが

あうとくふ時

とく共七る三尺七寸五分

入る一問  
ていよふあうよ

### 香二母尺五百十二文

又せに百費六入<sup>ル</sup>後<sup>セ</sup>

終<sup>ニ</sup>よりくつあう<sup>ク</sup>なふ

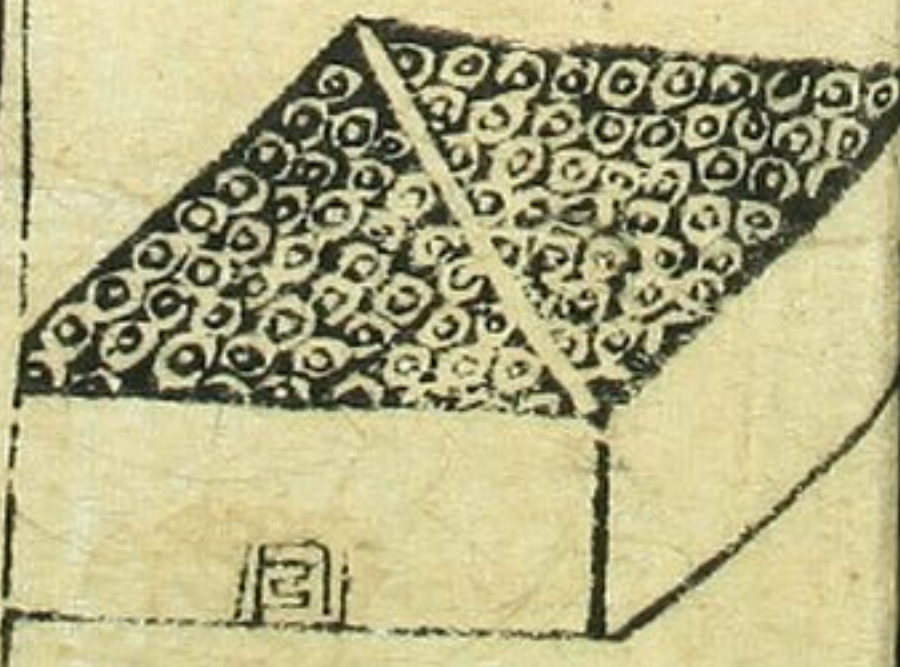
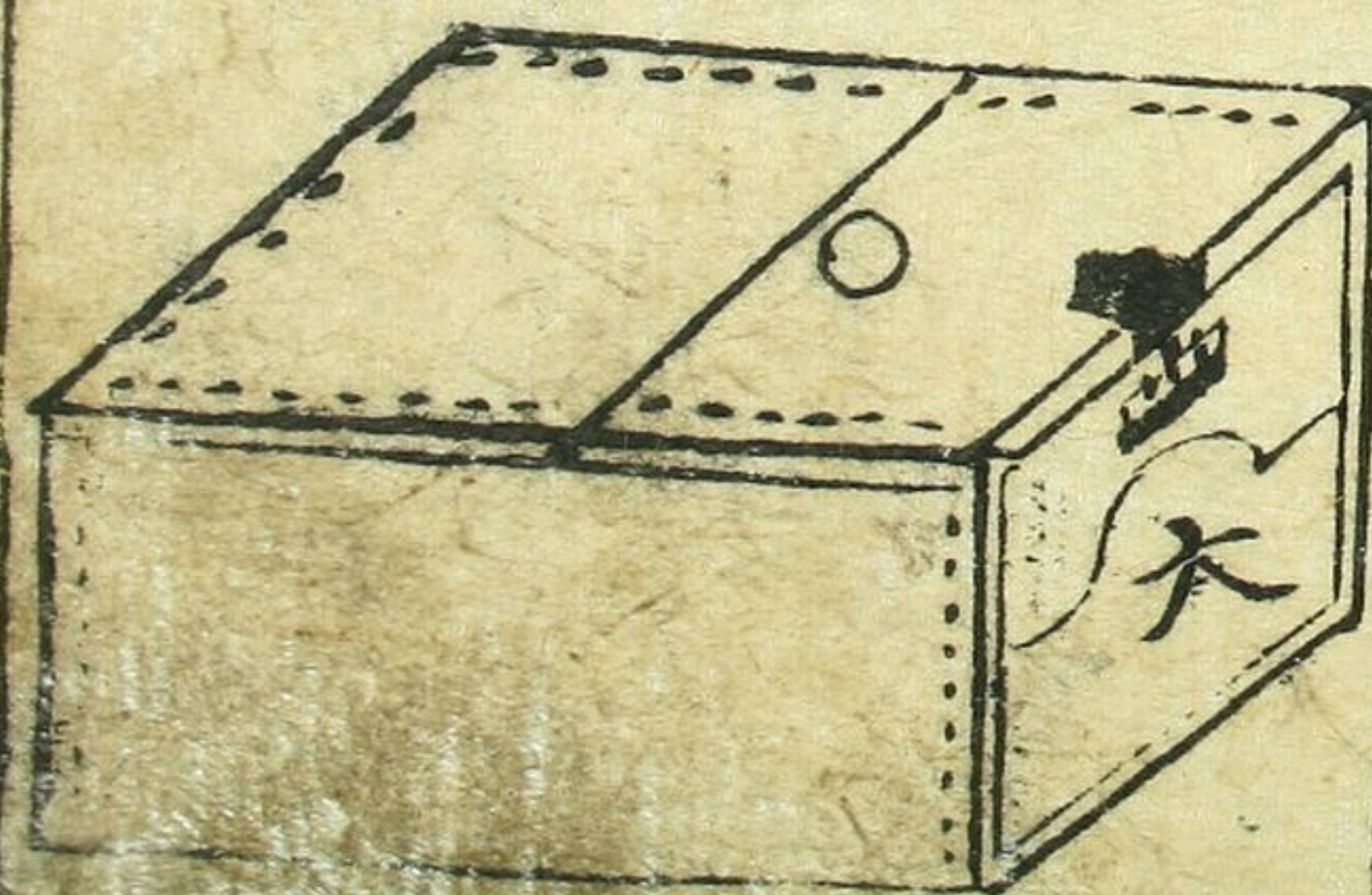
引<sup>キ</sup>ぬとく向

各日一尺三寸六分四方六面

但せにう<sup>ラ</sup>う<sup>ラ</sup>八分

あう<sup>ラ</sup>う<sup>ラ</sup>四分のう<sup>ラ</sup>う<sup>ラ</sup>

香の



一、四方のせむごま

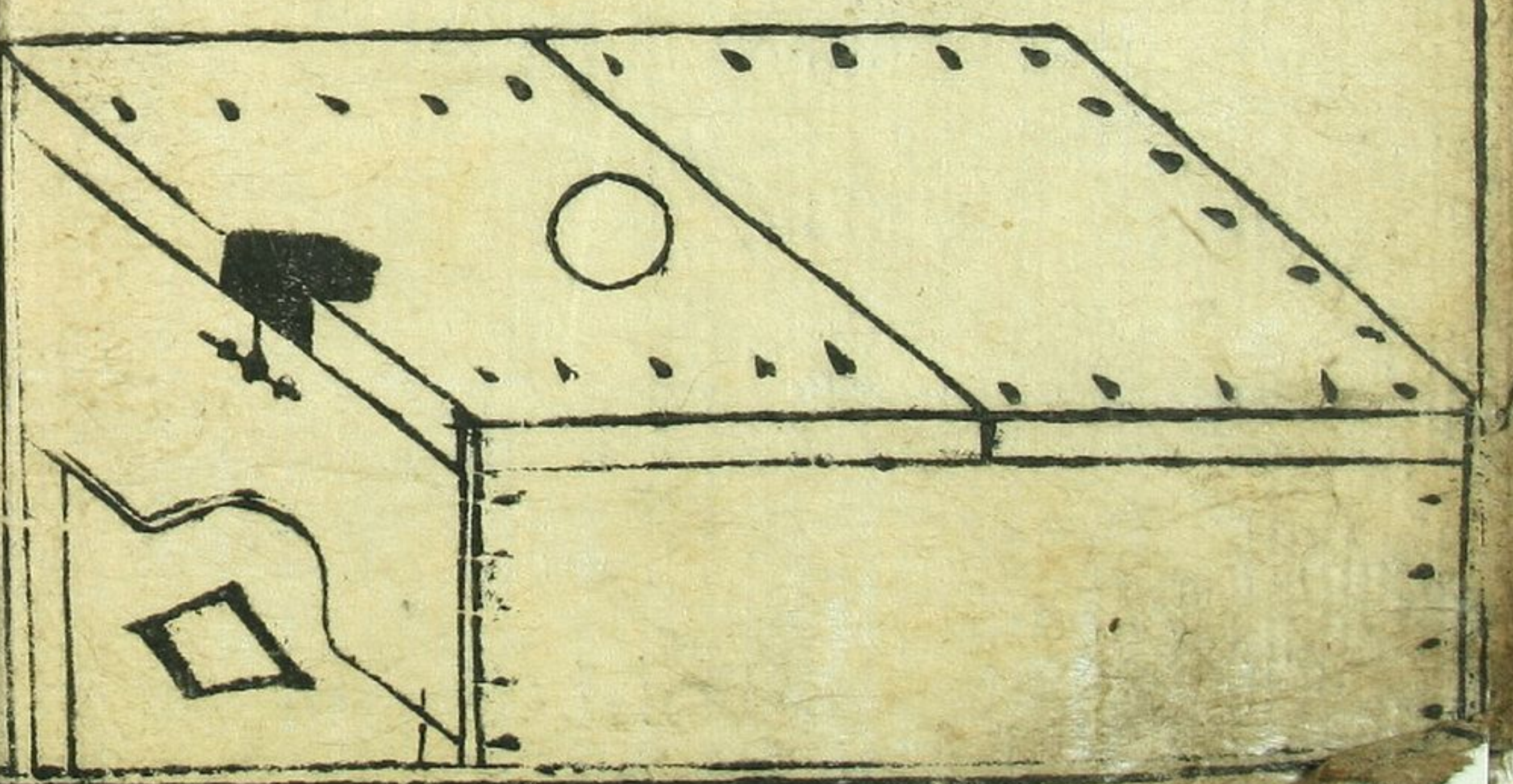
せむごまのせむごま

答曰

一万八千三百三十三

又答曰

三十三石九斗八升



日本国中の一、ふつふつあめ乃、教のゆり  
あそびの向

答曰

二、京令令上三兆九千六百六十億つゆ

右、教のゆり、あそびの向

三、千四百九十一石

但日本、東西長、九百廿七里十八町、三

又南、北、九、二百里、一里、計六町、二町、

六十、一、一、一、六尺五寸、一寸、四方、一、五、

の、ゆり、ゆり

書

孫まごとて。正月いちがつは。父母ちちおやといへ。子こと十二じふに  
 うじ。ちやうし。十四じふしちは。女め。この孫まごといへ  
 二月にがつは。子こも又また子こと十二じふに王わうの。子こも  
 女め。ちやうし。九く十じふ八はち十じふは。女め。かくの  
 一いちは。月つきは。一いち夜やつ。地ちや。と。ふ。と。ま。こ。も  
 一いちは。月つきは。十二じふに王わうの。子こも。一いち年ねん  
 中ちゆうふ。孫まごといへ。女め。と。一いちは。女め。と。一いち年ねん

合あ二百にひゃく拾しち億いっぴやく千せん二百にひゃく五ご十じゆ万まん四し百ひゃく四し百ひゃく



右みぎは。孫まごといへ。日ひは。年ねん半はん合あつ。く。一いち年ねん  
 つ。ちやうし。一いち日にちは。年ねん半はん合あつ。く。一いち年ねん

〇千せん三百さんひゃく八はち十じゆ万まん千せん二百にひゃく八はち十じゆ七しち百ひゃく五ご十じゆ

右みぎは。孫まごといへ。日ひは。年ねん半はん合あつ。く。一いち年ねん  
 日本にっぽん国くに中ちゆうの。物もの女め。三さん日にちは。一いち年ねん半はん合あつ。く。一いち年ねん

壺つぼ切きり下した

右に採るに自中と  
しりしに時ふらと  
まよひしに向

卷目  
二百七十四返と  
余百廿三里  
十二町と

他採るに一里よ八廿六丈  
つ居らつたりあり日た  
まより凡ソ二千二百里  
さうしりよし



和名に父母二五の採るに四一と

うむ一年中よまう成

穀二百七十六億八千二百五十七万四千四百三十一

右に採るにとひに四万

まよひしに向

○四里六町五丁四方

但一坪よ三百廿八と

右に採るに



四一

右に孫とこ一王よげー一粒つ。ふくまひ  
P 阿のけーるふけー入をし向  
六千九石二斗六分三厘三毫六粒ニツふ入之  
但一平にいけー四百方粒入つよりこ

右に孫とこに孫一粒つ。一王よあをふ  
P 阿の孫とふがー入をし向

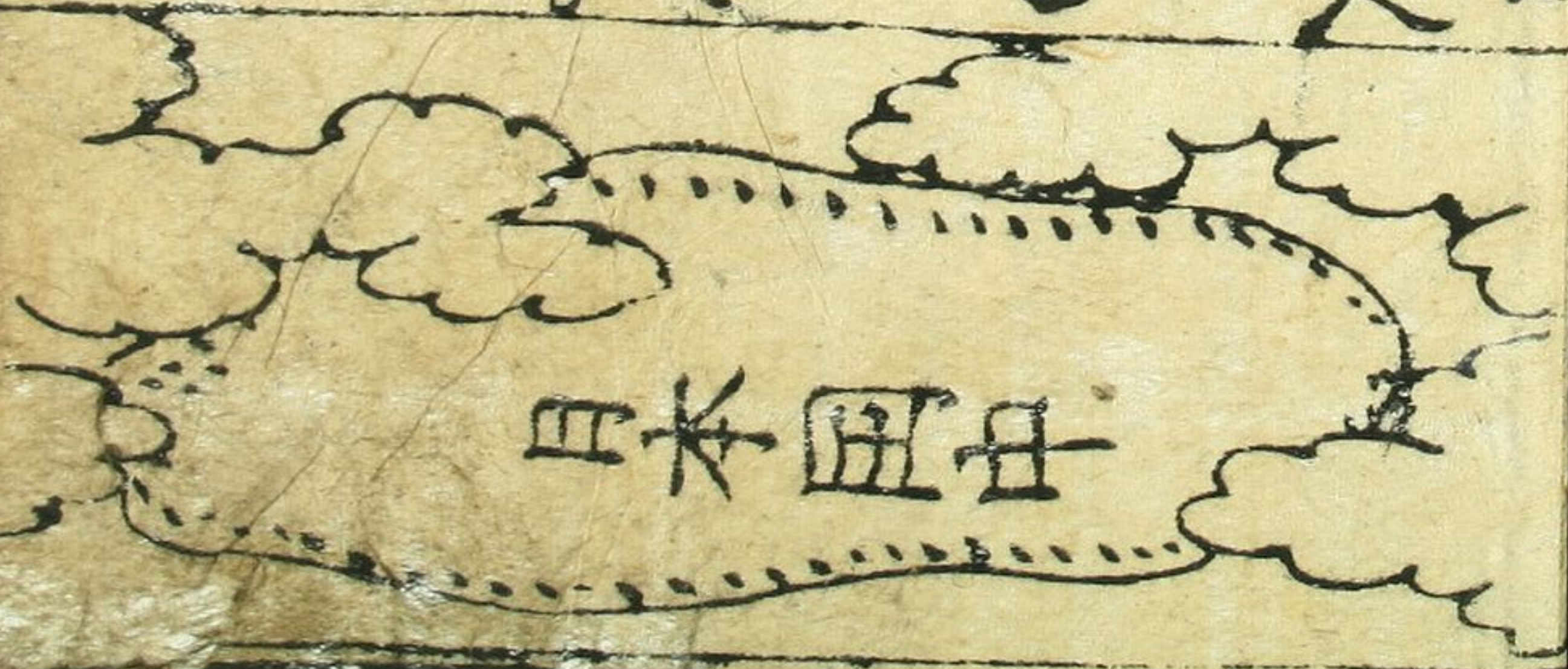
孫  
四千六百十三石七斗六升二合四勺  
但一平に六百粒入つよりありあり

日本國中男女の教行暴白

男教十九億九万四千八百九人  
女教廿九億四千八百九人

合積億九千万六百八人

右に人数と。ころよてんつてま  
P 入の日本乃まよりのまよ  
ころまよくと。右にまよまよ入  
うらまよし日よまよふが  
入をし向



百三系 北寄四千四百九十八石二斗四升八  
一年中八百六十七石五斗二升七十六石  
九斗六升

但身中と三百五十四貫ふつとりてし  
右男女の敷一四方小十二人つ居つとり  
しつとりしつとりふりし  
と向

長十一町廿一石  
横十町あり

長十一町廿一石  
男女のふ  
四十八億九万  
九千六百四十八人



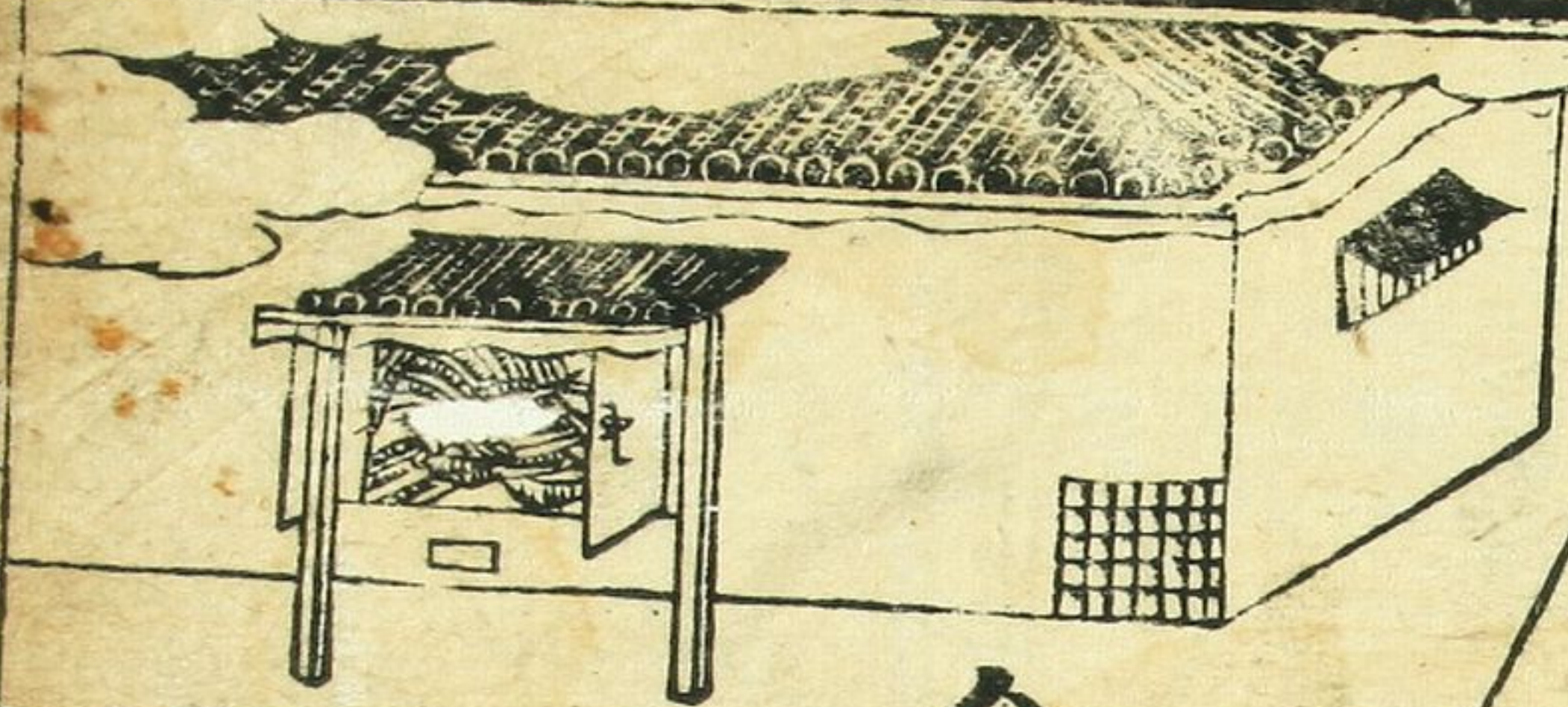
せいふとひよく一ふいよいて此目  
よいふよけよ女と向

共計三万六千八百七十貫九百十二文  
右目見  
二万二千三百六十九貫 六百  
目見九十三

合五十五万九千二百四貫五百五十二文

但九十六又百八

右とせにふりて女差入と向  
長十二石 ひろき四石  
ふ一石半ノくろふ入し



米一粒といふく一ふりて廿日りの  
 ちふがよぬきと向  
 米粒五億三千六百八十七万九百十二粒ニぬ  
 右の粒とますいふくつりてふれい

○秋九石四斗七升八合六勺六分九厘三圭三粟

但一斗は六万粒つ入つらうこ

大豆一粒といふく一ふりていふよが  
 ぬきと向 但一斗は五千粒入つらうこ

○十七拾三石七斗七升八合六勺六分九厘三圭三粟

一斗は六万粒つ入つらうこ

ぬきとよつりていふよが

長さのふかきと向

○長し十里十町廿五畝廿三寸

まの粒十八百長さつて二斗八尺

一尺三寸一寸九十分ちり



京中へ上様より報立千貫目ら下  
お敷三万七千八百七拾九ありお一けん  
報百廿四多八分ニリツク也

丸京中家で万けんよして一けん  
人す人のド一よつざりて四十万人を  
これよ米日よ又人ふちよして八月よ  
二千石づつ八月よ六万石年中よ七十  
二万石あり

又一けんよ廿人のド一よつざりて  
世のよ米日よ又人ふちよして八月よ  
二千石づつ八月よ六万石年中よ七十  
二万石あり  
くともこの米えうぬらふふれう  
うらふらふらふらふらふらふらふ  
ついで米一合つ。日一うおくへのま  
まん羽よ一してこと。年中よ七十三日  
くいのも一り

京中の四少くも日一三百石の  
のひし月よ二万二千石のひし  
一年中よハ於四万四千石を賣やじ



わきののあつこまはまら  
らりらりらりらりらりら  
米のよがわりのりりりり

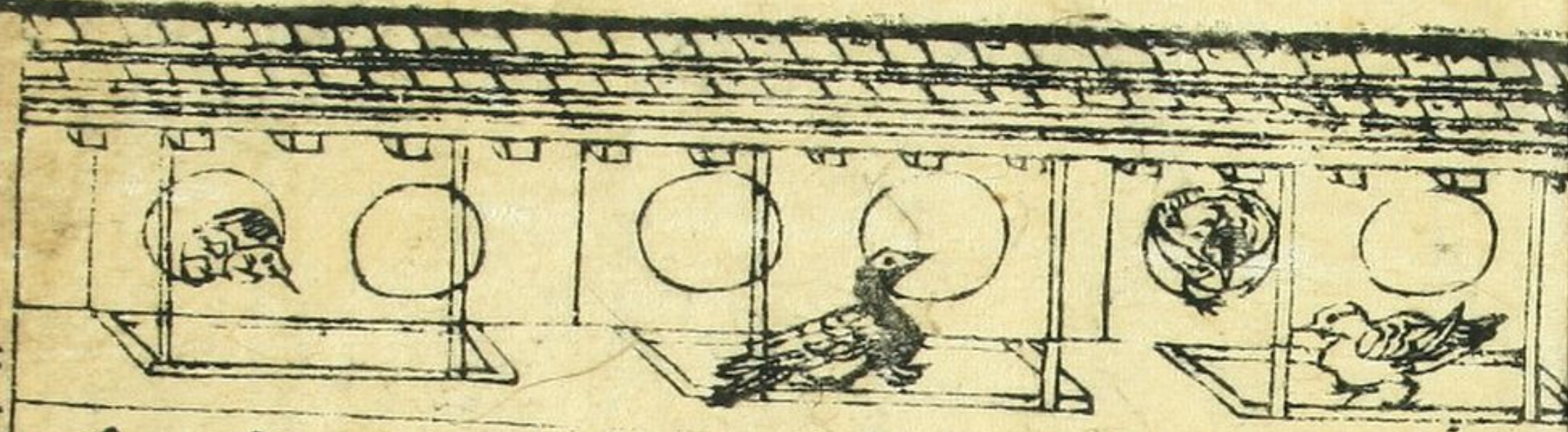
○ 答曰 千石 お米こ

右、米にてい京中と  
目あややいひひひひひ  
三ふふふふふふふふふ  
やいふふふふふふふふ



二月よふ又子と子と子と子と  
月よふ又つとつとつとつと  
いこもつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

合八千百九十二ととととと  
つとつとつとつとつとつと  
くれ八千百九十二ととととと  
右いこもつとつとつとつと  
てよ八日とつとつとつとつと



慶長十

かきくえんとも云ふの九百九千

九の九九の九九の九九の九九

一の九九の九九の九九の九九

いふつゝの九九の九九の九九

〇合九億九千七百令令  
二十九百九十九

は九百九十九は九百九十九と

りく二なるれいあきし

うす



はるのうすのうすのうすのうす

ひるのうすのうすのうすのうす

あんのうすのうすのうすのうす

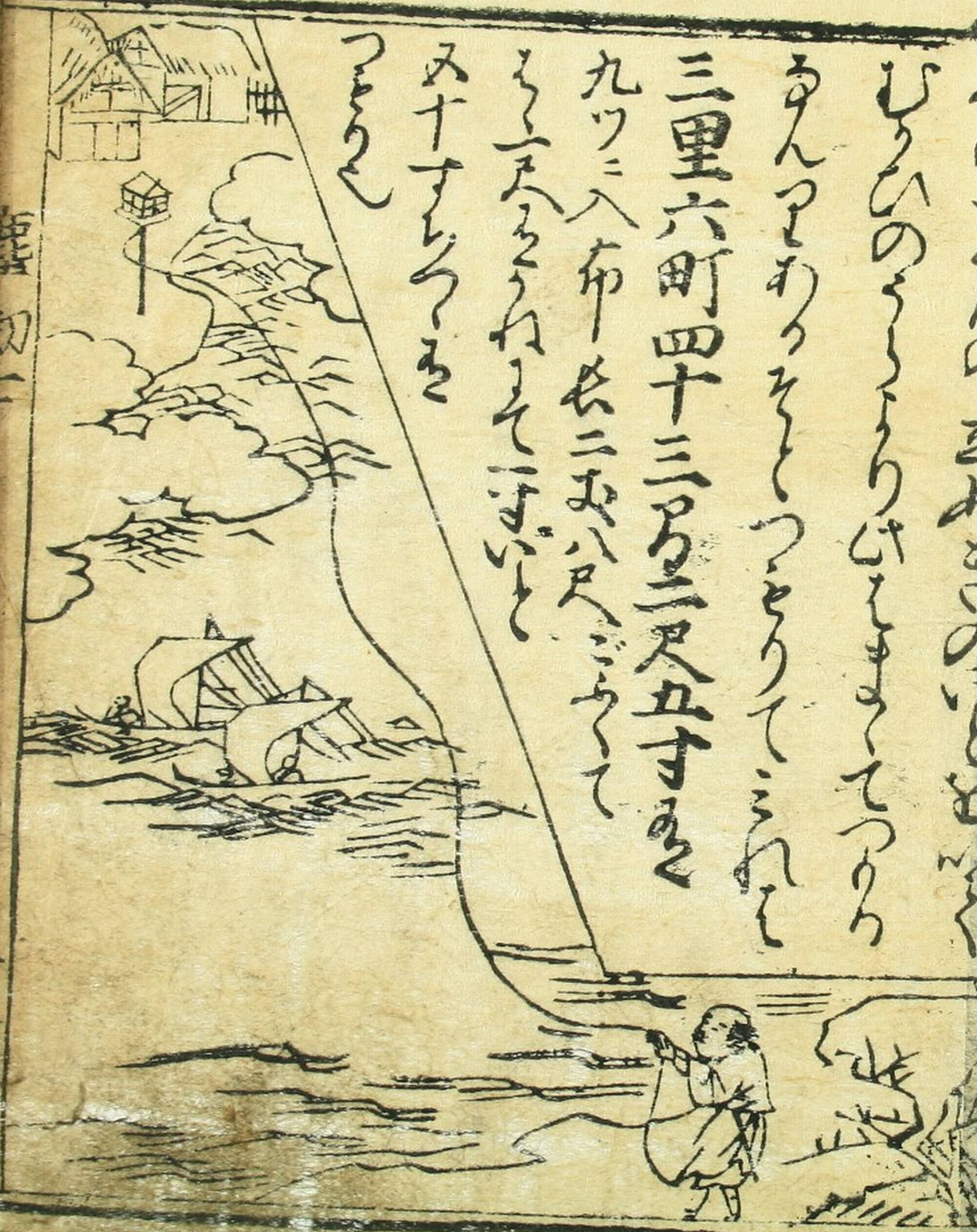
三里六町四十二尺二寸五寸

九ツニ八布一長二丈八尺二寸

うすのうすのうすのうす

うすのうす

うす



慶長十

け一粒と目よくしてふりて百廿日の  
 月をのくしたる数あるふりてふりて向  
 六千六百四十六溝千三百九十九穰七千八百  
 九十二秭四千五百七十九粒三千六百四十  
 五束千九百令三兆五千三百令一億四千  
 令十七万二千二百八十八粒よぬし  
 右に教さんのがりてにていけよとれり金  
 これ何れとてふりてふりてふりて物な  
 て方六面よりてふりてふりて

六六町  
 一町ハ  
 六十畝  
 一畝ハ  
 六尺八寸  
 一分サ子  
 一サ子  
 一サ子  
 一サ子

十兆六千六百四十六溝千三百九十九穰七千八百九十二秭四千五百七十九粒三千六百四十五束千九百令三兆五千三百令一億四千令十七万二千二百八十八粒よぬし



六千六百四十六溝千三百  
 九千九百七十九粒三千六百  
 四十五束千九百令三兆五千  
 三百令一億四千令十七万二  
 千二百八十八粒よぬし

聖  
 徳  
 太子

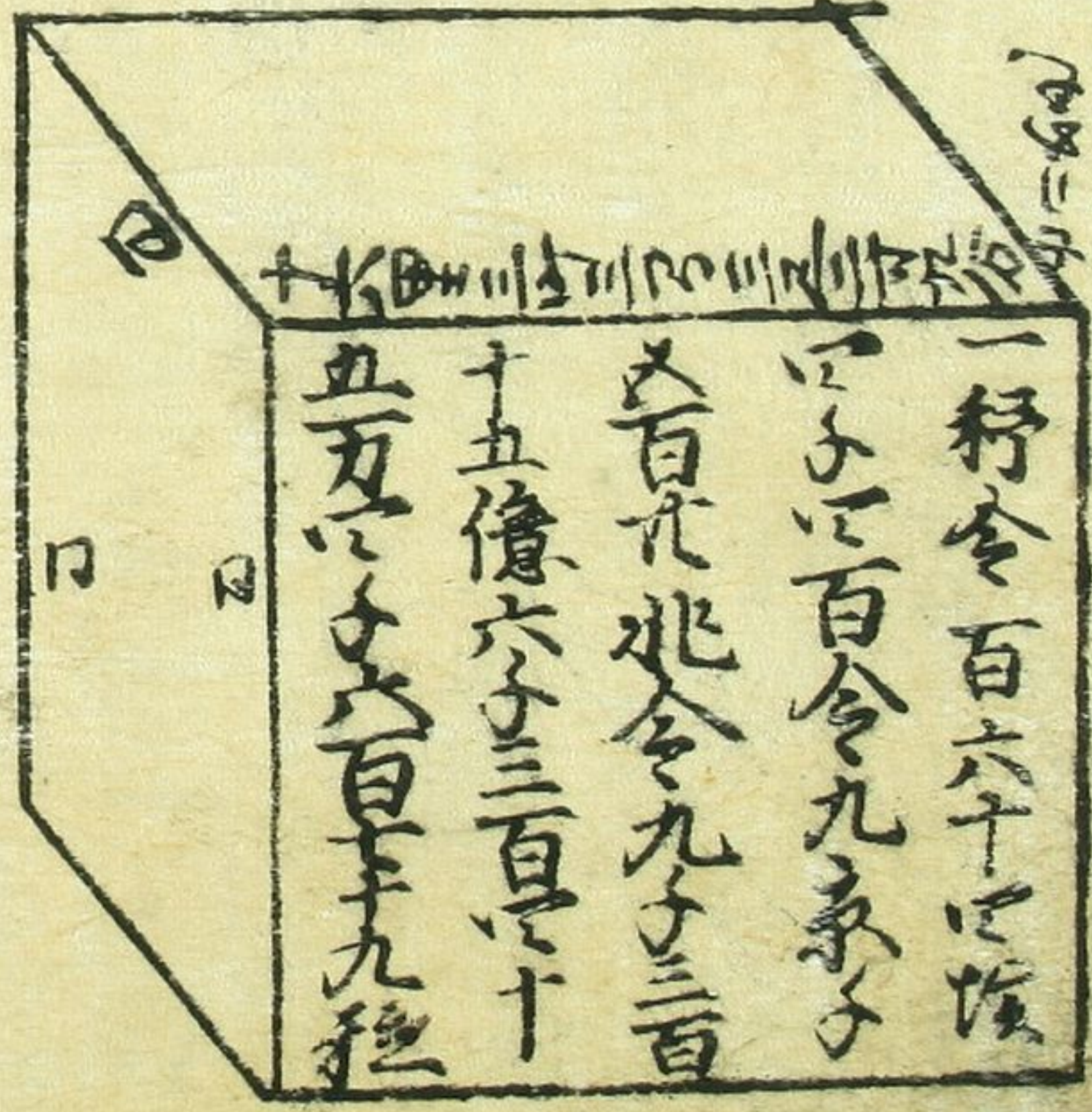
聖  
 徳  
 太子

十七

志のわきり一掃金百六拾五萬石  
系七石金に億九千三百七十九千七百七十七粒を  
ふれと用をすて

拾六里三町三間

三尺二寸九釐



志のわきり二系五子又百又十七兆七子六百八千

西方のまじりしは七尺八判金よまじりしは七尺

りしは七尺八判金よまじりしは七尺

○百二万九千粒に六面と判金三枚の積

又百七万二千粒に七寸と四枚の積

右と六十六ヶ国へより付ふ

一ヶ国よ二万七百八十七粒

三ヶ国よ一ヶ国より

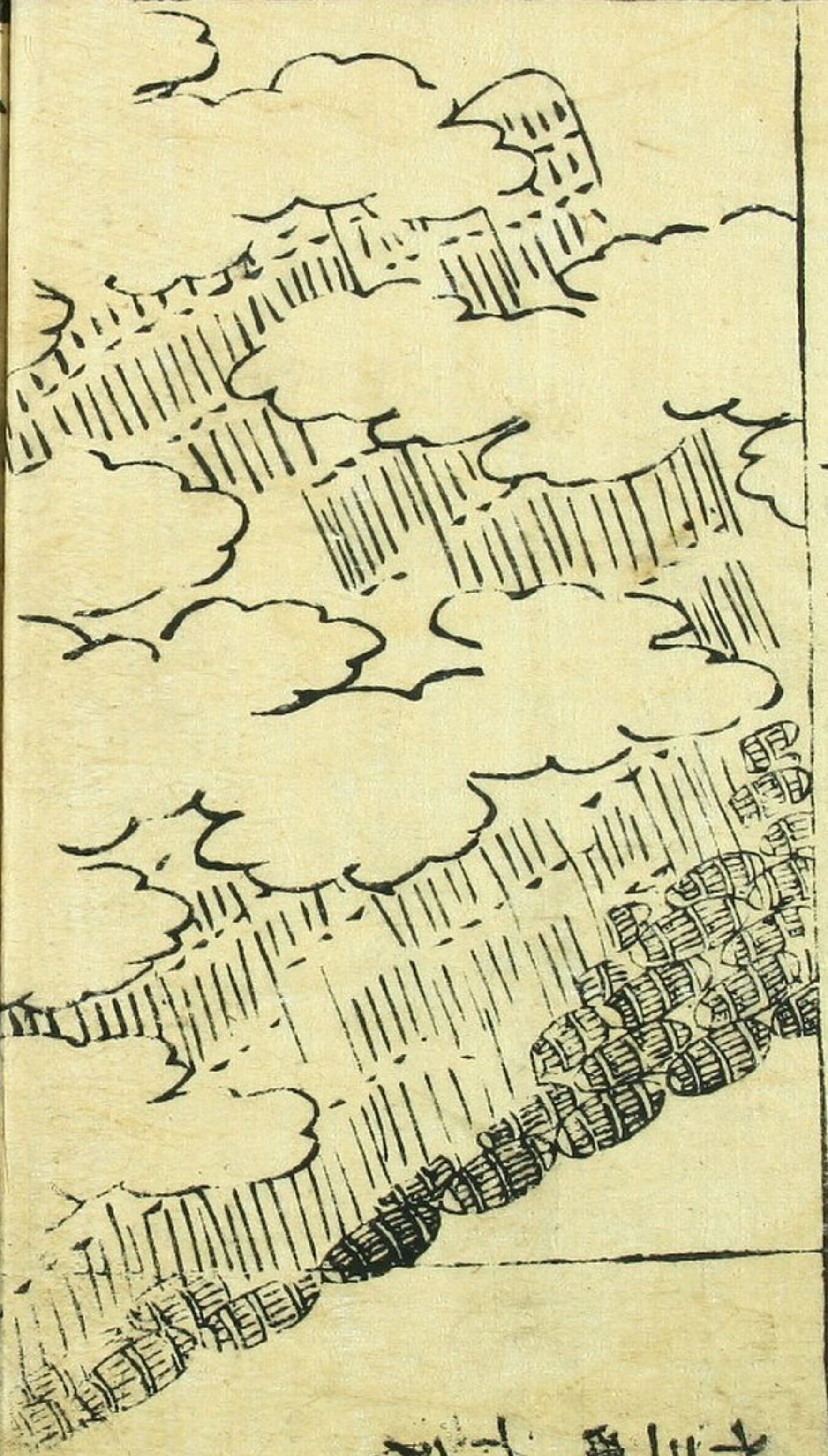
さうのまじりしは七尺

七尺



分金  
百九  
千及之  
事也

日本國中六十六ヶ國の米凡々四千五  
 石三つより中して山米なるは十石より  
 より十三町たり四方より



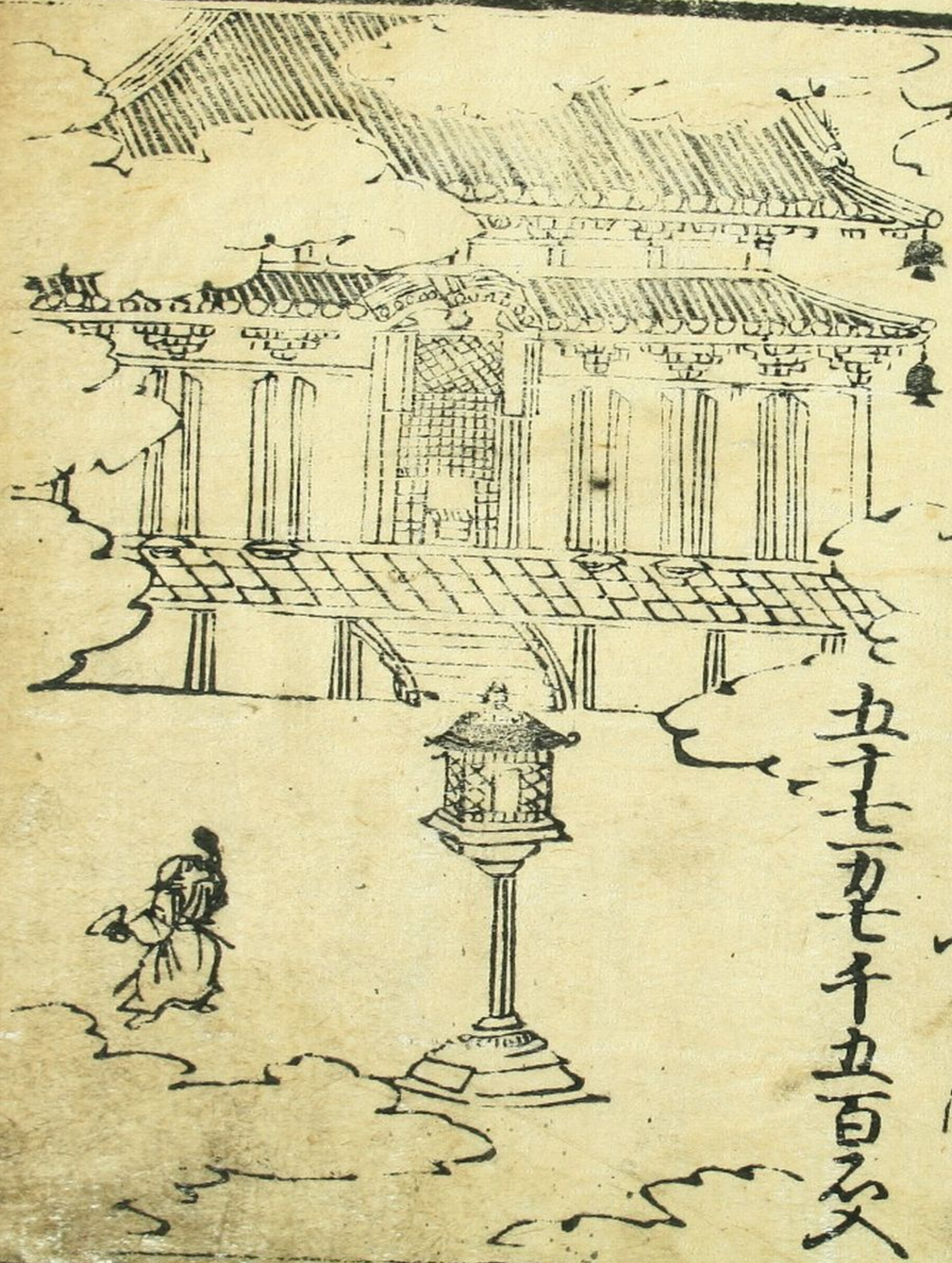
十三町

八ヶ岳の産米は中よ  
 いらすとたふてたこの  
 ことか

十二ヶ岳の中よ  
 産米の産入ハ  
 めいし

一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一

産米切下



五十七万七千五百八十八

大佛の堂兼と八丈の堂なりといふ

千尋の堂といふ時よはくさくさといふ  
 けしよしけく千尋の堂といふ  
 長廿五尺 但許教ハ五百坪也

十五尋の堂の中よ  
 長一尋ひろさる中  
 のろがいろり  
 五てまより一尋つ  
 と云時ハくさく

一尋	一尋	一尋	一尋
一尋	一尋	一尋	一尋
一尋	一尋	一尋	一尋
一尋	一尋	一尋	一尋

三里のくらと三人のし  
じま二正よのりわさす  
時いさんつづのりえま  
百

一人  
二里  
の



よてぬのよとけしをよ  
りのるにくとけを  
あはせてまけいんよふあ  
ナニんつとれい十二ん  
あきう又人よま十でん  
つとれい六んたうま  
みくけぬもくの教布教  
るあけい同ぬま九人  
ぬの百廿え



減九百

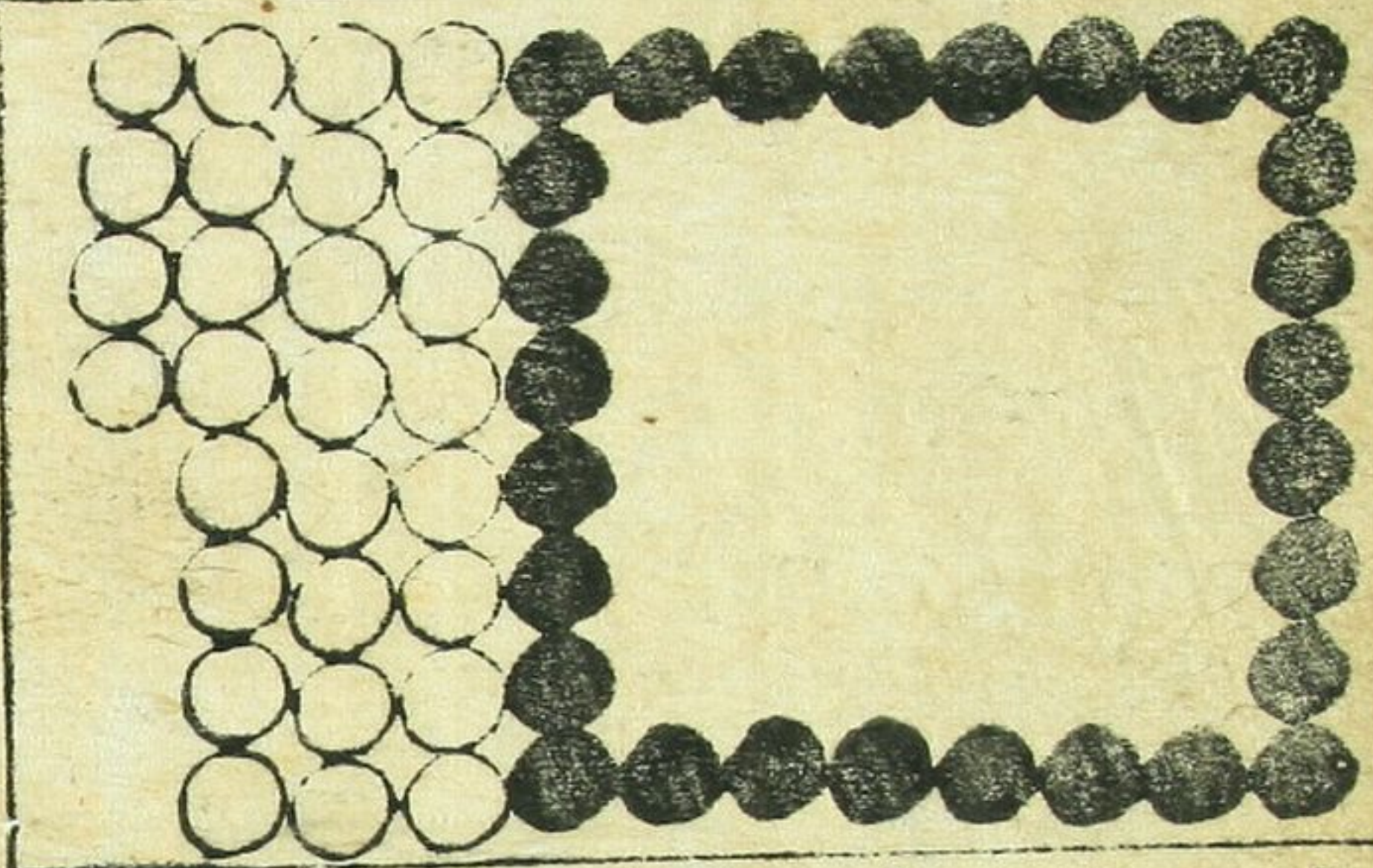
あつ二つと二つして一ひね  
 時よ二束かすし二束かす  
 くれおくぬ束つ二つにけ  
 とれとつふ時り  
 まる二束かすいぐ二束かす  
 七束かす入二束かすよ  
 二束のころ時七束かすよ  
 りの計りけいあけく二束  
 と七束かす入二束かすよ



七つひく時二つ掛くと云又九つひく時よ二つ  
 掛くと云又三つひく時二つ掛くと云時よ  
 七の敷ハ於六ありと云る  
 七つひく時二つ掛くと云又九つひく時よ二つ  
 掛くと云又三つひく時二つ掛くと云時よ  
 十と云と合百九十九と云時二つ掛くと云  
 八と云と合百九十九と云時二つ掛くと云  
 九と云と合百九十九と云時二つ掛くと云



茶師 算



めいほう方ニありて一有ハツ  
 五耐之ニ有方のハツと名の  
 まる垂三方とハツと又  
 ハツとありて足は半ツガ書  
 是ハツとありて足は半ツガ書  
 とあり

○外松ハわりと云

は小半ツと云々のまん用ありて十六と入ハ  
 外小松ハ起方耐ハ八と云之ハ十二ツありて入  
 入子奉の付ありてふりて下ハ何程はありて  
 一五分一五分二五分三五分五分六分四分八分



まろ七とありてふときてあり七といきつ六分  
 ありてたの七かれい六七の字ニありてとあり  
 五れ九一とありて六分とありて五分六分と  
 是をたの九一とありて四八分とありてとあり


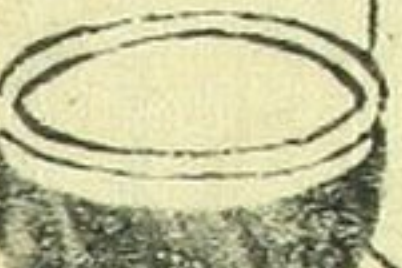



入子算

賞合分

塵末下

五十四

唐子のるべのヌツ入子を報亦ハ又グハリ時  
 既の須ハ一ヨリさがりニツめハニヨリさがり  
 旨ツめハニヨリ下五ツめハヨリヨリハニツめハ

	五分七分
	五分六分
	五分五分
	五分四分
	五分三分

法はたよき  
 数よきと  
 五ニツめハ法ハ

九分と尺一加三ツめハ分と加四ツめ七分と加又中  
 六分と加合又五分と分と分と分ハ

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

一ツめハ地ハ三人の中報割付

塵末下

五十四

糸の高人の心

見先 百斤十文

見先 外於八斤十文

### 六拾貳貫

見先 三貫百二斤

見先 百三十三貫八文

こかの高人の心

人先 半斤九文三厘

見先 廿二斤八文一厘

### 九拾貳貫三貫

見先 二百零半斤百九文

見先 半貫三文九厘九絲

大さうの高人の心

人先 六十七斤一兩二文

見先 十八斤八文二厘

### 四十二貫九百貫

見先 二百五十二斤半貫

まんの高人の心 二百五拾斤七文ときて一人おの心

半貫費八百貫とてこれに六十二貫をせよ

百六拾貫目おてこれに八貫をせよ

廿二貫とて半貫をせよこれの半貫を百六拾貫

とこれに二貫をせよこれに百一十貫とて

半貫をせよこれに半貫をせよこれに百貫

とこれに半貫をせよこれに半貫をせよ

又これに半貫をせよこれに半貫をせよ

三六とてこれとてこれに半貫をせよ

算之實

廿八分三又女比三又一の事志れぬ時ふ百  
 百六分めと三又小ぢれ廿八分又十六分女比  
 六又と女あくとれ廿八分十又と志れし  
 又いと八分首分と六分費八百同とれ共  
 三二女と百六十費あくとれ三子首三  
 又また地七分費八百同とれ  
 一八二女とれと百六十費あくとれ百十三  
 またと女比一と事志れぬ時ふ百十三  
 二又八と女あくとれ百十三と事志れぬ時  
 十の事志れぬ時

あつといふ米二百六十  
 石つとていふと  
 なりとていふと  
 時一とらん  
 百石身七石つと  
 右と二百又千石の  
 ろく拂時とらん  
 りんふりとも向  
 於六石と事志れぬ時



は二百五十九石と七石との間に  
一七九とぬこれと百七石との間に  
えんちん十六石と廿八石と六石と  
又右と左と  
○ 出百五十九石と廿八石と六石との間に  
右と二百五十九石と百七石との間に  
えんちん十六石と廿八石と六石と  
茶ふよろと又ぬ九下時は  
百五十九石と百七石との間に

一 年間の費用は 拾石と百廿二石と

一 えんちんハ 拾石と百廿二石と

一 茶ふよろと又ぬ九下時は

右と左と八費用少く六下時はえんちん十六石と  
えんちん十六石と廿八石と六石と

○ 七百十六石と廿八石との間に

はよ中ちんちんちん 出百五十九石と百七石との間に  
えんちん十六石と廿八石と六石と  
又右と左と  
○ 出百五十九石と百七石との間に  
右と二百五十九石と百七石との間に  
えんちん十六石と廿八石と六石と  
茶ふよろと又ぬ九下時は  
百五十九石と百七石との間に

親子家便



小百五十四日とくくもれと百十六石  
 計とるく  
 又ひよのうららひの六百八百あぐんま  
 来るよけくくくくくくくくくくくくくく  
 ○小百五十四石とくくくくくくくくくく  
 右と七百十六石と計は六百八百日とく  
 かくれいせ八七二五二女れと計の六百十  
 月とくくくくくくくくくくくくくくく  
 と志きしとれひひひひひひひひひひひひひひ

子の合目一年よん米二石つはく一年  
 小百五十四日とくくくくくくくくくく  
 子とくくくくくくくくくくくくくく  
 けりてはかきぬくくくくくくくくく  
 吾も是もあつり乃  
 内りくくくくくくくくくくくくくく  
 もん米千石  
 三百 廿八費同  
 廿八歳して六くくくくく

百五十四

七

子にやしむひそそつる入目毎年よらん  
 年三三つと作す自ツと入らん用ひせし歳  
 ららうと付垂て使ひの年ハ二石五斗入  
 さん用仕と二年めららハ二石の加へて  
 ニワリの利とひけり又三年めりし二石加へて  
 ニワリの利とくらひば年ハ二石と入目  
 とらぬよとひけりひものそそつるあり  
 とらかりとらよそそつるひもの入目とえ  
 用ひて見事ハ中りつるありとれとらる

五歳 餘年十九石二斗六斗六 甚細五百四斗八分リ

五	六斗 廿六石六斗六斗七斗	六百九十九斗六斗
五	七斗 廿五石又斗四斗七斗	九百廿八斗八斗三斗
五	八歳 廿六石又斗六斗八斗	一貫二百十三斗七分
	九斗 六十一石二斗八斗三斗	一貫五百九十二斗三分
	十斗 七十八石二斗六斗七斗	二貫廿六斗七分九斗
	十一 九十九石六斗六斗六斗	二貫五百八十七斗七分
	十二 百廿八石六斗八斗	三貫三百廿九斗
	十三 百六十一石二斗六斗	四貫百廿二斗七分
	十四 二百二石又斗六斗	五貫二百四十八斗五分

五斗

三斗

唐書

五

十五 二百五十七石六斗八升八分

五

十六 三百零一石九斗一升八分

五

十七 四百一石六斗八升八分

五

十八 五百八石六斗九升三分

五

十九 六百卅三石三斗八升八分

五

廿 七百廿七石八斗九升三分

五

廿一 九百九十九石八斗八升八分

五

廿二 千二百卅六石一斗八升八分

五

廿三 千五百卅五石三斗九升八分

五

廿四 二千四百卅石三斗八升八分

五

廿五 二千九百卅十三石七斗八升八分

五

廿六 三千七百六十二石九斗八分

五

廿七 四千六百六十七石六斗六分

五

廿八 五千七百九十九石三斗八分

五

廿九 七千二百九十八石三斗八分

五

卅 九千六百七十二石八斗七分

五

卅一 一万二千二百七十七石四斗八分

五

卅二 一万四千四百九十九石九斗八分

五

卅三 一万七千五百七十七石三斗八分

唐書

七



土	土	土
卅八	二万七千七百六十一石三斗三升	五百三十三石又百七十五石
卅六	二万七千四百九十一石六斗三升	七百九十八石六斗六升
卅七	三万四千八百三十九石八斗	八百七十八石八斗
卅八	四万二千六百九十九石六斗六升	千九百三十三石二斗五分
卅九	五万二千五百五十五石八斗七升	千三百五十五石八斗
四十	六万五千八百九十九石六斗六升	千七百五十三石七斗
卅一	八万七千七百六十七石六斗	二千四百五十五石七斗
卅二	拾万二千九百三十三石	二千六百六十二石
卅三	十五万二千六百零三石	三千三百零四石
卅四	廿万五千六百六十八石	四千九百三十三石五斗六升
卅五	廿七万八千八百三十九石	五千六百六十八石

子七人 報千八百費月とけてなと云村

兄より次男よひ五つり川男より三男よ

一より三男より四女よひ五つり川三男より

五男よひ一より川五男より六男七男まで皆

一より川ありて兄のを報ふふれとてと川村

兄 報五百五十貫九石八斗八升

次男 報二百七十貫八斗八升

三男 報二百零七貫八斗三升

四女 報百廿三貫七斗六升

五男 報二百九十二貫七斗六升

六男

二百貫百八十石八分六リ

七男

百八十貫四百石七石七分七リ

先兄五人三貫目と左子と右二男のよき貫目

と重是五とくれ又百貫と重是と左(加一男)

又百貫九とくれ又百貫十貫と重是左(加四女)

又百貫十貫五とくれ三百貫又重是左(加五男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加六男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加七男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加八男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加九男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十一男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十二男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十三男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十四男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十五男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十六男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十七男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十八男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加十九男)

又百貫十貫九とくれ三百貫又重是左(加二十男)

十五歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

十六歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

十七歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

十八歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

十九歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

二十歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

二十一歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

二十二歳 三百貫三石三斗三升三合三勺

七人の子は米二千石の時米子初と歳

より三つよあつて米多と多事奉

兄十五歳 二百貫八石九斗八升八勺

二男十四歳 二百貫七石六斗九升八勺

三男十三歳 二百貫七石六斗九升八勺

四女十一歳 二百貫七石六斗九升八勺

五男十歳 二百貫七石六斗九升八勺

六男九歳 二百貫七石六斗九升八勺

七男八歳 二百貫七石六斗九升八勺

八男七歳 二百貫七石六斗九升八勺

九男六歳 二百貫七石六斗九升八勺

新領割

は白見より二男一年らゝ兄より三男の二年  
ちゝめけよ兄の<sup>か</sup>しは弟く乃やれらゝ  
つりとおき合前又も又兄乃や一廿六歳  
七とくれ首すす又も一若く廿六と娶  
時二百十と女これとほして米二千石り  
たふとけしてはどのりくれ兄の米<sup>ま</sup>米と  
志れし又二男ハ兄の廿六歳一二年の米を  
加へて廿六と女是と二千石よりけしては  
のりくれの二男のしり米一志れし二田の富  
は右とくお給ひあり

唐去下

下三

西村の<sup>ま</sup>地女ひよりよと地女とひり  
新領ある千五百石ころの女を六百  
廿一石ハ計ふ米六太もは西東村ハ三七分  
西村ハ三ツ九分とて時西村の<sup>ま</sup>新領云  
時よ又東村の<sup>ま</sup>小計とて向

東村、<sup>ま</sup>八百三十五石計  
地女二百九十二石計七年九人  
三ツ七分女

西村、<sup>ま</sup>六百六十石計  
地女二百廿九石計七年七人  
三ツ九分女

は之より千五百石よ三ツ九分とくれは

唐去下

下三

八十石と成れば毎地六石八十石八斗  
六斗六六の内おく川流れて六十六石八斗  
交るこれと八斗のうきよれ東村のものと  
志ししは八斗のうきよれ中村のものと  
九分八流て八分とこれおくよき

知り上中下と三分り地付て一分さる地  
多五石石の内上村多五石中村多五石  
石下村多五石石を又五石の内おて  
三村とて先よ九十石川流りて地付て  
上村百石石と上中下と二分さるり  
上村百石石と上中下と二分さるり

上村地八ツ三分七リ二毛地よわらると云  
さ二石

地百六十七石字字

中村地八ツ一分七リ二毛地よわらると云  
さ一石七石

地百八十八石九斗二斗六

下村地七ツ九分七リ二毛地中三分さる  
さ一石二石

地百三石六斗三斗六

大工之割

上は中の村より百五十石より二分とくれは三石  
 五分を又下の村より百廿石より二分と倍して  
 五分とくれは又石二升より二分八石六分  
 百十石を加へて四百十八石六分これと云ふ五百石  
 とりつとくれは上村の抽ぬハツ三分七リニ毛と  
 くれは中ハ是より三分下中ニ三分の

上村のハハ ハツ三分七リニ毛あり

中村のハハ ハツ一分七リニ毛上村ニ分

下村のハハ セツ九分七リニ毛中村ニ分

上大工五百人 中大工千百人 下大工八百

六十人 三合合千九百人（米百石

海り時より中ハ七合より中より下ハ

八合よりよりして百石の米をとけく

各町は上大工一人より下よりあつるを向

上大工一人 三合八合より

中大工一人 三合三合より右ノ上

下大工一人 三合二合より中ハ合

上五百人 廿六石 三合六分

中千百人 三合六分 三合六分

橋の割

下八百六十人よ廿八石又計八半六合  
は日中大五千百人よ七石とく  
と女又七人と八合と合せと下又合  
是と下大五八百六十人よ廿二石九斗  
と女これよ七石と加つ時よ廿石と女  
これよ又百石と加つ百廿石と女これと  
二千五百人ともつこれ上二人  
ニク又よわらとこれ

又上大五五百人よ廿八石と知時若く百九  
リニツ  
ありのあり  
一牧つが  
町うら六百  
七町のは  
計  
十二  
四百六  
これ八  
は十三

計  
十二  
四百六  
これ八  
は十三

黒口二



立小長知

ねいそまゝふらふらふらふら  
 りらららららららららら  
 とりらららららららららら  
 らららららららららららら  
 らららららららららららら



白皮積



東いぬいしらまほら二方た  
 八十一ありま

東 又東方長さひらまを  
 いぬいの方ひらま向  
 ひらま方ひらま向

東ひらまららららららら  
 二方た七十二ありま

壺四下  
 七二



積截田

今唐末を以て長之るよ本口まより  
 六尺す迄口まより二尺五寸あり  
 け代報於牧也三人よりてり  
 三人へよりよよりてり時よハ  
 本口よりこの長さす迄より  
 ありしよりてり同



二級四文

松木 八十本  
 檜木 九本  
 け報合式費七百九十百

松木 百廿本  
 松木 四拾本  
 け報合式費三百廿本

松木 九十本  
 栗木 百廿本  
 け報合式費九百二十本

栗木 百廿本  
 檜木 七本  
 け報合式費百廿九本

右檜木松栗  
 ありしよりてり  
 答曰  
 いのま一廿本  
 ありしよりてり

唐末

三級三久

檜木 式本

松木 四本

松木 五本

松木 五本

松木 三本

松木 四本

松木 三本

松木 六本

松木 六本

三久級合式百式松有

三久級合式百式松有

三久級合式三百目

あつちのちのちのち

二級三久

きあ 三本

ぬの 八端

ぬの 式端

きあ 四本

きあ 式端

きあ 式端

け代合式百式松八分五分

け代合式百式松八分四分

け代合式百式松八分六分

きありめの糸と白あ

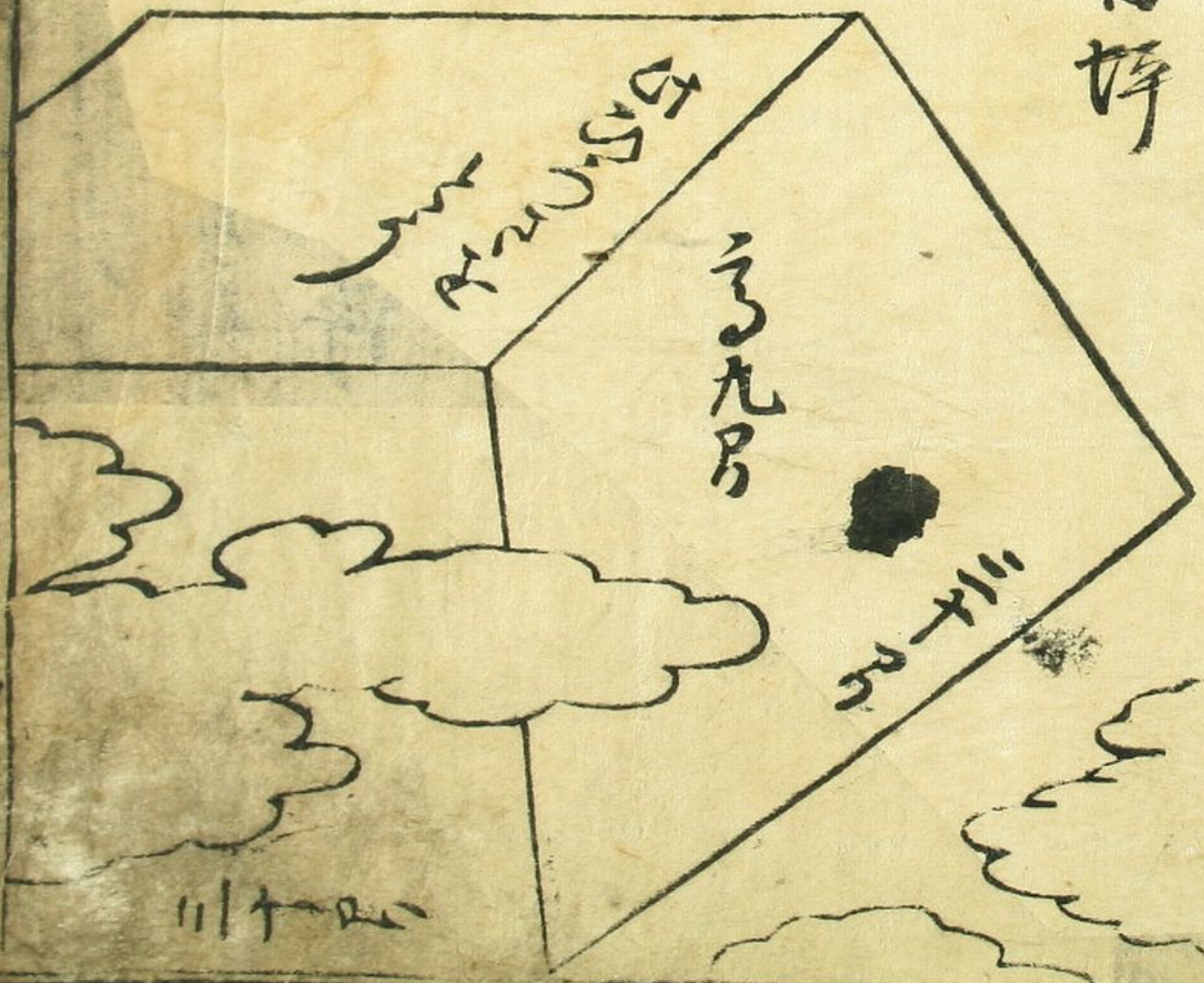
右ぬのきあきあやねのくくつりきき  
糸くんとすよりし

盈 胸 法

今如是二處と上馬九疋と賣り  
 えんだ十三疋のうんととされれば小判  
 五両あまりの又か夏一両とこんだ一疋  
 うりて上馬三疋買ととされ  
 適是より又上馬六疋とこんだ八疋  
 と賣てか夏一両ととされ  
 小判ととらるるに  
 右の如く是上馬こんだおの  
 福えんるの如く  
 一両の上馬一疋  
 一疋の上馬一疋  
 一疋の上馬一疋  
 一疋の上馬一疋

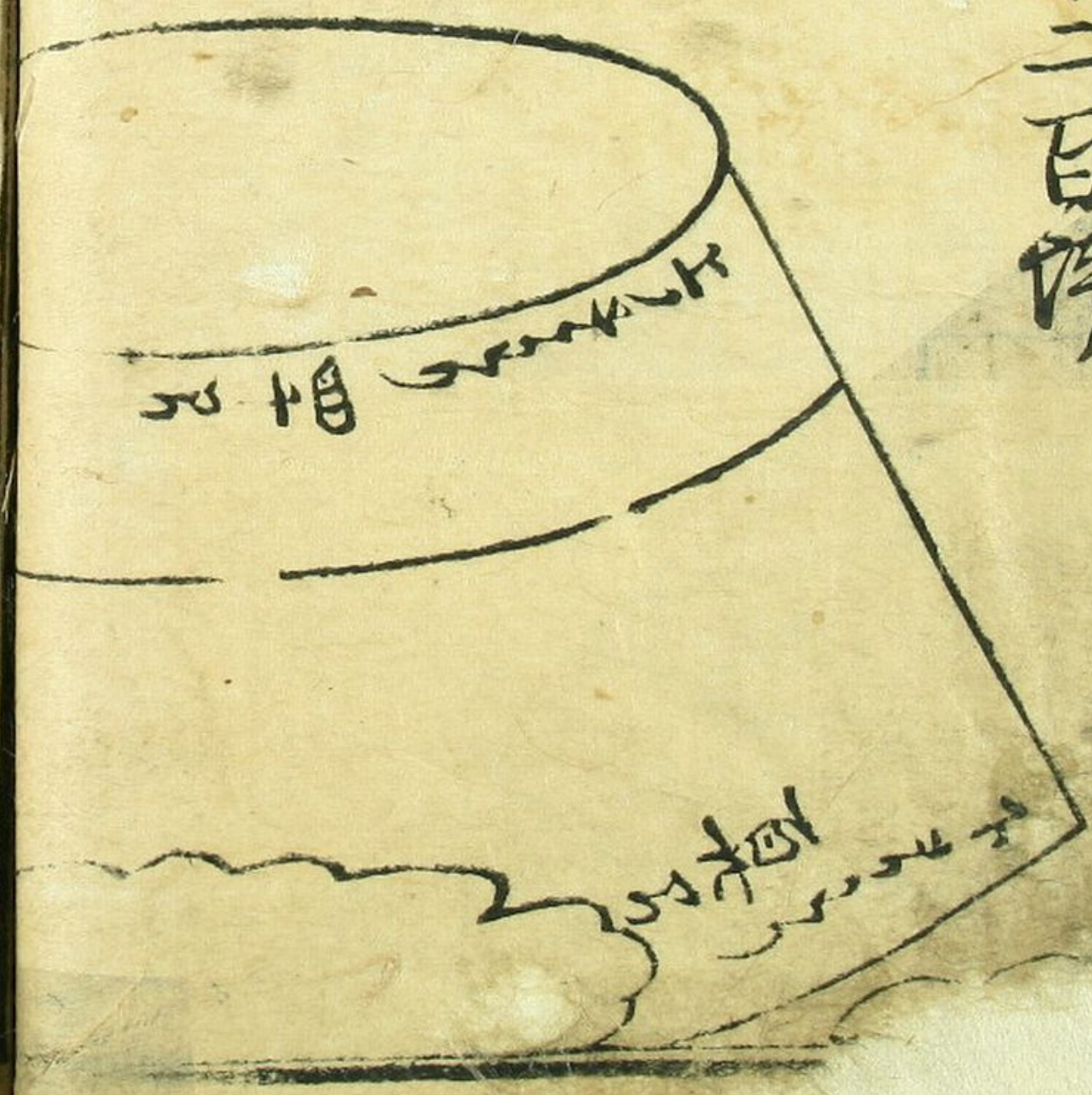
方 堂

小判の如く  
 五五五千六百疋  
 五五五の如く  
 南よ下飛り  
 四方の如く  
 九疋天主の  
 土真至と  
 時又八上にて  
 ひろきさる  
 方



田 臺

上まのりり宮十石下のまらり  
 百廿石よまのり六石ある時よ  
 けう人にて土千二百坪  
 切てとり時よ  
 上らりまのり  
 りより  
 きりりりり  
 りりりり



栗 石 積

栗石七百五十坪とそり五尺のり  
 九段つとあけ下らりの二段めのたより  
 のひろさ一丈二尺め八七尺  
 宮殿め八丈九段め八五尺  
 めひよつとて下の  
 ひろさとの上の  
 ひろさとの  
 りりりりりり  
 りりりりりり

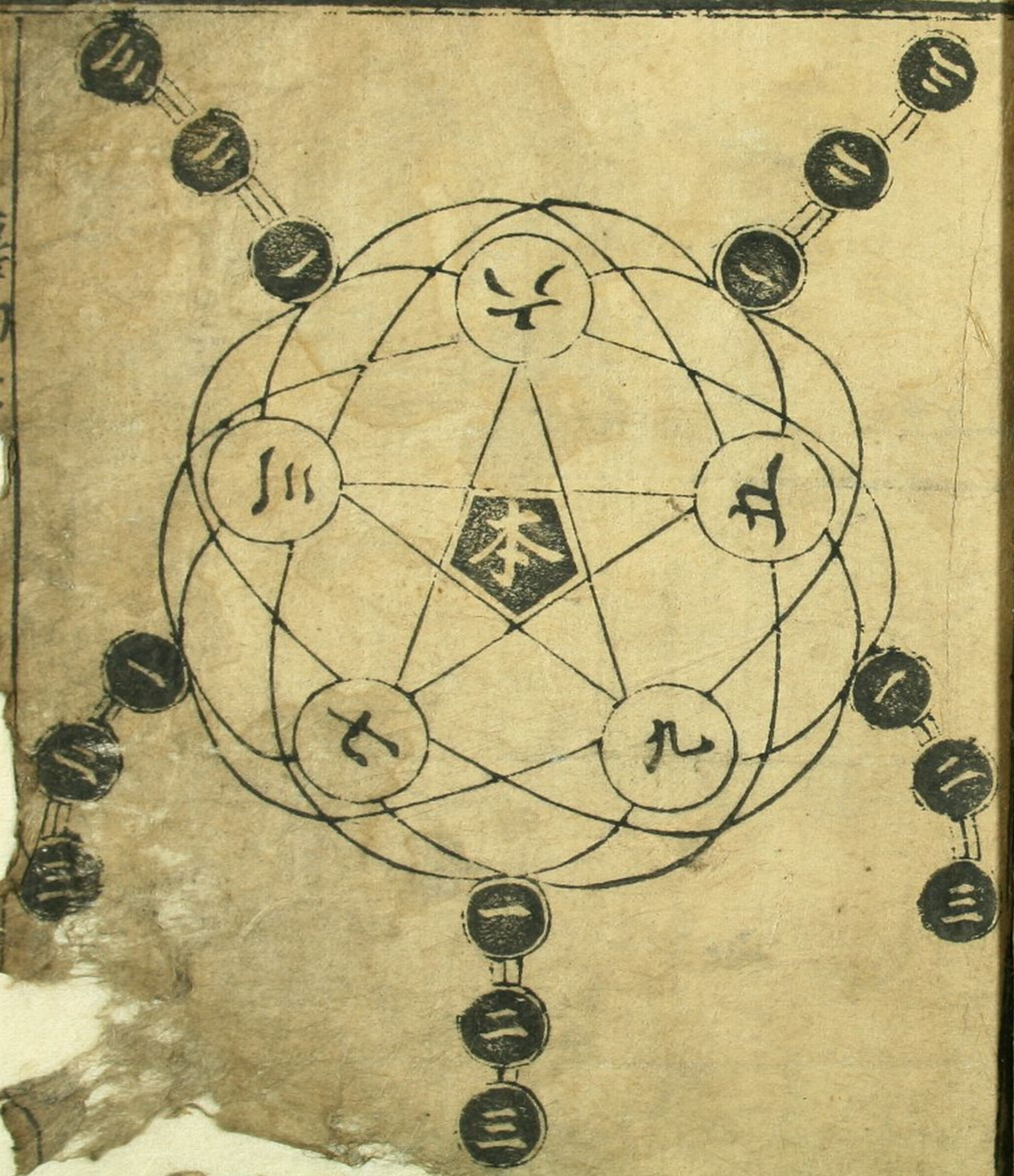


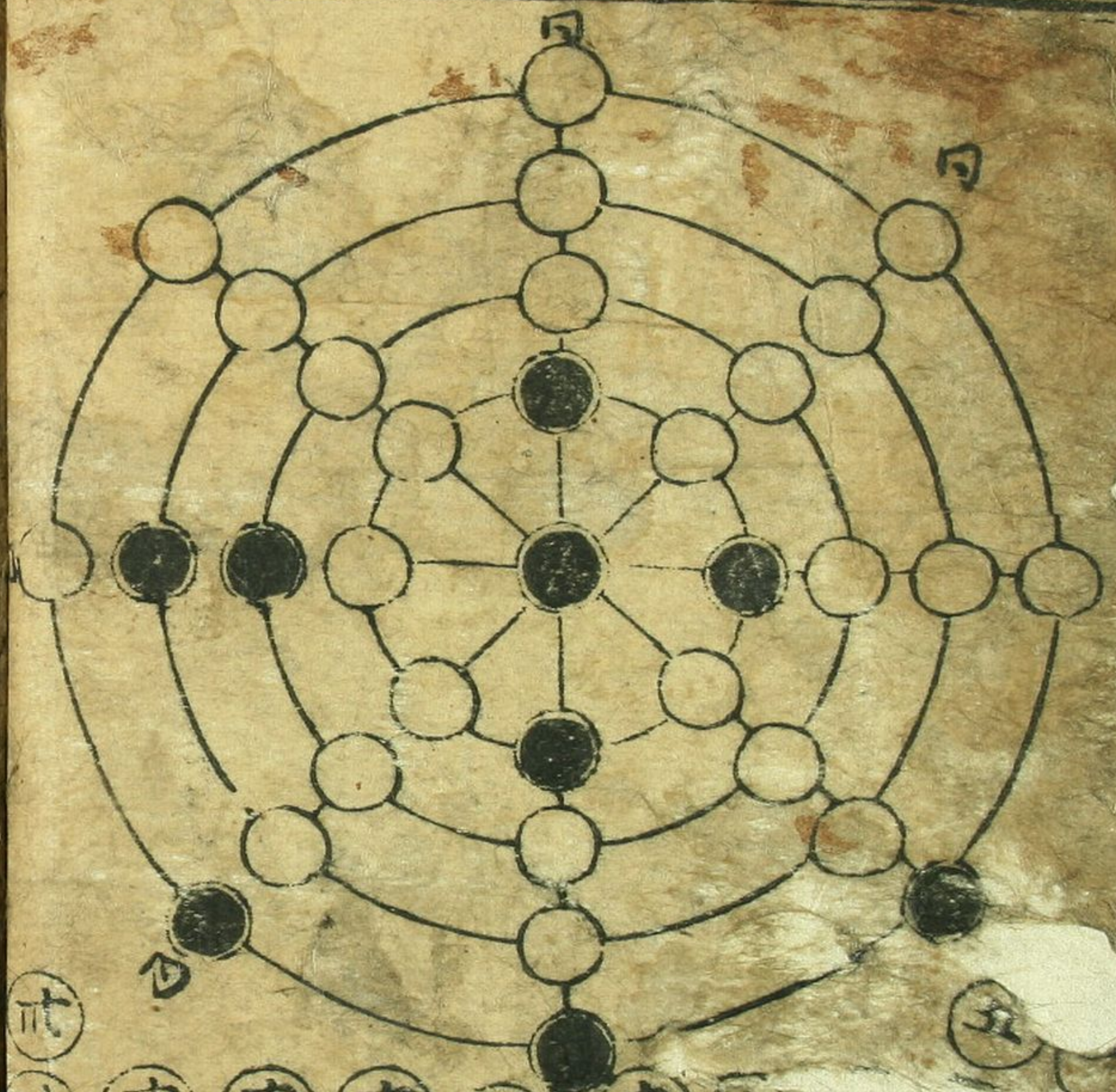
四 截 積

さういふ一頁の御  
 後以時一人ハ二千九百坪一  
 百坪一人ハ三千



さ弦の長さ  
 中の矢のひらき  
 弦の長さの  
 多より同





九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 廿一  
 廿二  
 廿三  
 廿四  
 廿五  
 廿六  
 廿七  
 廿八  
 廿九  
 三十

自是以前世間より有塵劫記者我  
 のまあるまらざれ或はたつと或はたけ  
 あるを其違闕とたたくて今又新  
 編塵劫記と名を付けて板に  
 記すし書るよしと失ありらん自今以後世  
 行て算法の指南のなるらん者可合  
 算即者也山城国葛郡吉田士兵衛  
 澁川村住人  
 光

寛永拾八年巳年霜月吉日



